

(5) 東海



東海地域では、景気は東日本大震災の影響により、弱まっている。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、大幅に減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は東日本大震災の影響により、弱含んでいる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

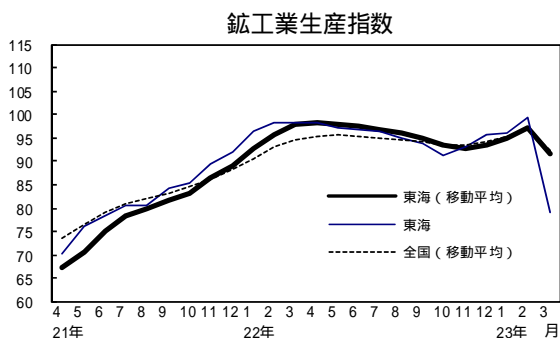
前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年2月)	今回(平成23年5月)	
景況判断	持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、弱まっている	
鉱工業生産	持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、大幅に減少	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	
雇用情勢	持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、大幅に減少している。

輸送機械は、乗用車や自動車部品が、東日本大震災によるサプライチェーン寸断の影響により、大幅に減少している。一般機械は、金属工作機械で、海外向けが堅調、国内向けの需要にも持ち直しの動きがみられるものの、足元では減少している。電子部品・デバイスも、半導体素子・集積回路がスマートフォンなどの情報通信機器向けに高い水準にはあるものの、東日本大震災の影響から、足元では減少している。プラスチック製品は、工業用製品が自動車向けなどで減少している。化学は、医薬品が堅調に推移するなど、増加している。



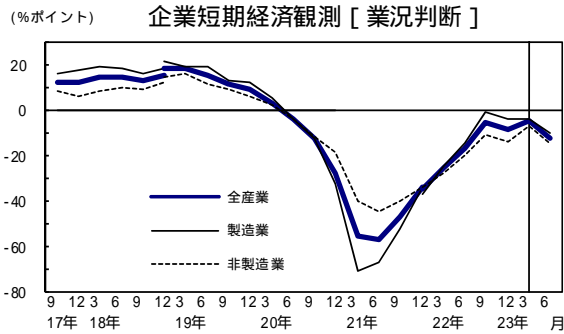
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
輸送機械	37.5	7.6	6.5	0.6	61.0		
一般機械	12.7	0.1	7.9	8.1	6.4		
電子部品・デバイス	6.8	1.1	1.7	1.6	1.5		
プラスチック製品	5.4	1.4	0.1	0.4	4.2		
化学	5.0	3.8	4.1	5.6	0.4		
鉱工業	100.0	1.8	1.9	0.8	4.0		

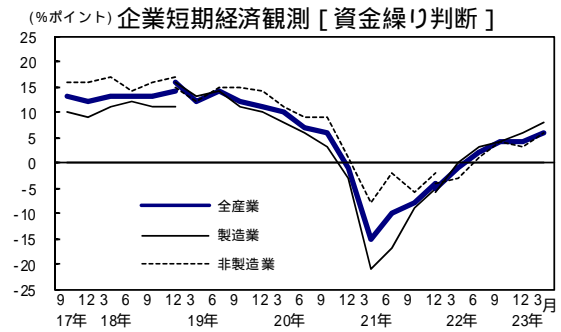
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

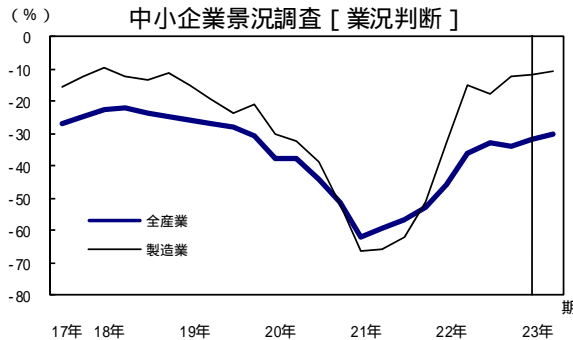
(2) 業況判断、資金繰り判断
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

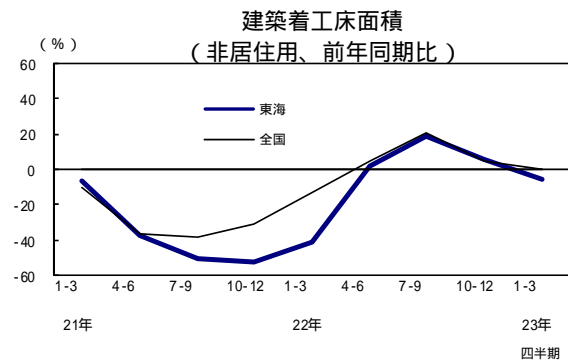
「東日本大震災の影響で、自動車関連の生産が停止していることもあり、下請企業でも稼働日数が減っている。週休3~4日という人もかなり多い(金融業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績見込み	23年度見極
全産業	7.5 (11.5)	4.2
製造業	8.6 (10.0)	6.0
非製造業	6.5 (12.8)	2.7

(備考) 1.()は前回(12月)調査結果。
2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

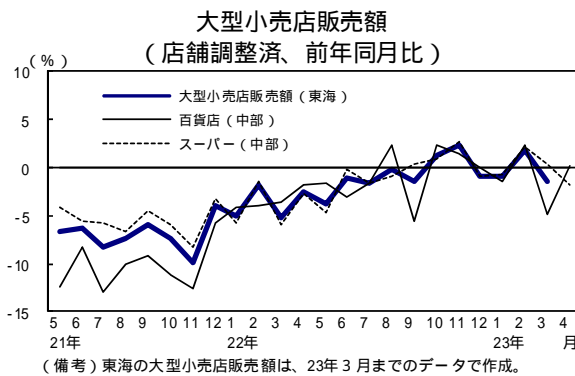
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、気温が低めに推移し、冬物衣料品に動きがみられたものの、雪の影響で客足が鈍ったこともあって、前年比低下幅がやや拡大した。2月は、月前半は冬物衣料品、月後半では春物衣料品に動きがあったほか、バレンタイン関連商品がおおむね好調だったことから、前年を上回った。3月は、東日本大震災の影響による消費者マインドの低下により、入店客数が減少したほか、気温が低かったことによる春物衣料品の不振などにより、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、4月の売上高は、名古屋地区で前年同月比0.8%増、名古屋市を除く中部地区で同2.7%減となっている。

スーパーは、気温の低下により、鍋物関連の食料品や機能性肌着が好調だったほか、東日本大震災の影響で飲食料品や防災関連商品が好調だったことなどから、前年を上回った。

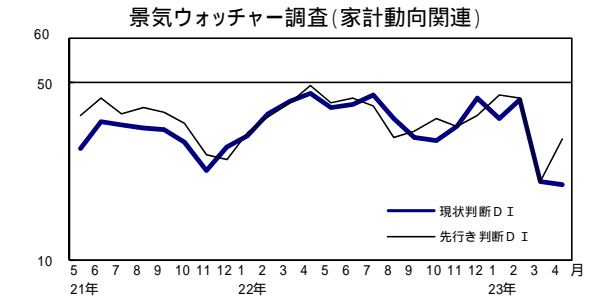
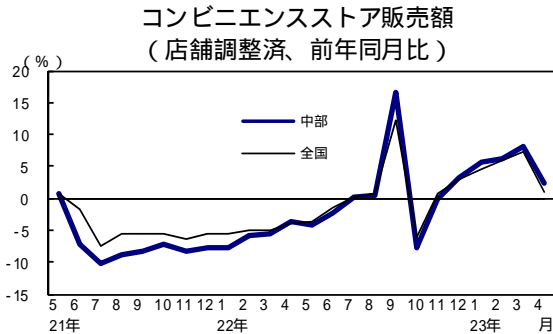
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「売上をけん引してきたたばこが、東日本大震災の影響で納品されず、売上は急減している。来客数も減っている(コンビニ)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月
大型小売店	2.5	1.1	0.8	0.3
百貨店	2.1	1.7	1.0	1.6
スーパー	2.5	0.7	0.8	0.5
乗用車	25.3	14.8	29.1	22.9
景気ウォッチャー	45.8	42.3	41.2	38.5

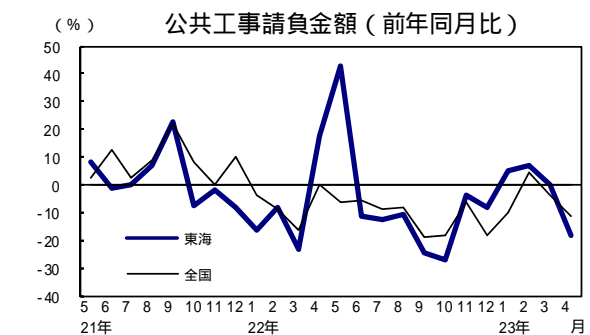
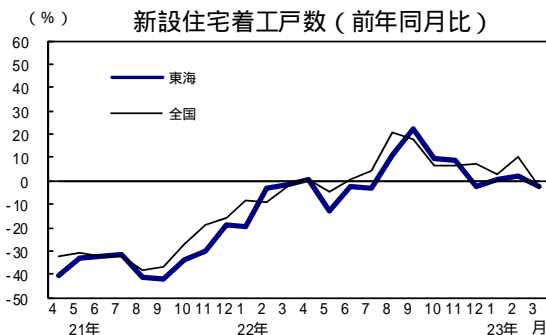
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。百貨店、スーパーは中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家、分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、おおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は22年度累計で見るとほぼ同水準となっている。

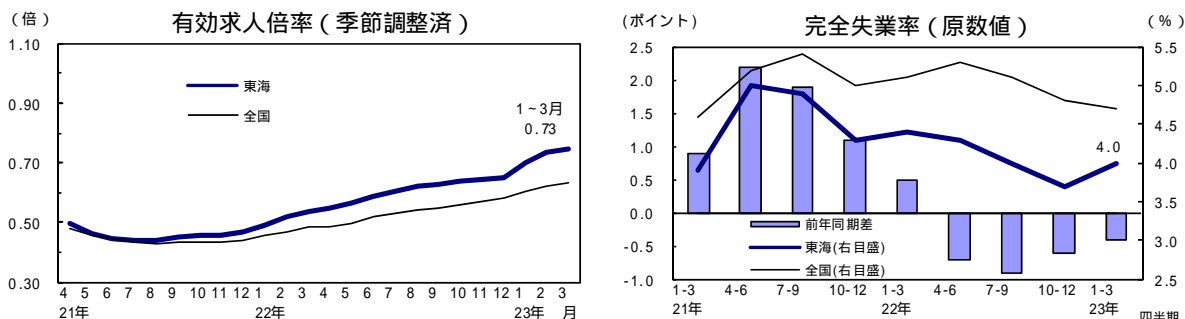


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は東日本大震災の影響により、弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。3月の新規求人数は減少している。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

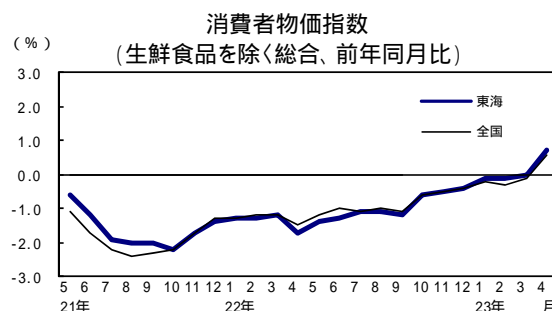
「東日本大震災の影響で、雇用調整助成金の相談が増加している(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月	23年4月
倒産件数	327	334	338	424	123
(前年比)	0.3	7.5	10.3	16.8	13.9
負債総額	584	976	560	808	573
(前年比)	62.2	36.2	32.8	40.7	160.1



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・東日本大震災の影響で、関連製品の売上が増えている。その一方で、国内から海外へと生産拠点を移した得意先もある(化学工業)

<先行き>

・大企業が長期の夏季休暇を推進することにより、旅行需要は増える(旅行代理店)

